

はかりの娘と知れど文車をけおはれ強きに逃げ出さん
と一けを源を導きて押入ぬが親附人に出る儀
美ありと二人共刺殺て家に火をかけ出て出るに
あきの大勢阿をもと引退くを追詰追々切伏せ
大勢の云々なる近付もの目も見えよ遠き者も
少中白鳥十郎の息女のと安部源兵衛昌基自
害まを是と誂れぬとせよと云ふ佐々木を逆
手に持煙の中へ飛入りしと見えそと裏の数人に
くま入り谷川をはさみひて深山の奥に入りけり
是をいふとあま共いふにゆに怖れて近付は焼

跡を待ち守り居る松永の嫡子九郎を馬後詰
に追ひ来り又深手を負ひぬれは神をみて大
に怒りて證えたりとあかて姫君の行末をいふか
し山にふりてさか見えと下知し多くに難兵もこ
使おとぬぬれもいふにあらぬとて焼死
て是をいふ男女三人の死骸阿にね入し時に姫君
をきし殺しと後ち源を導死しと見え有りと疑
ひ多に宿の夫婦あより来りしこの死骸を見
てこれいふなり此娘と知れど大に歎き
かかるといふは身主の治おととてえ谷地の者で